

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果

教科に関する調査結果（全国平均との比較）

【小学校】

『令和4年度』

平均正答率	国語	算数	理科
大口町	同等	同等	同等

『令和3年度』

平均正答率	国語	算数
大口町	やや下回る	同等

『令和2年度』

新型コロナウイルス感染症拡大による全国的な臨休業のため、未実施

『平成31（令和元）年度』（現中学校3年生が、小学校6年生の時）

平均正答率	国語	算数
大口町	同等	やや上回る

<昨年度からの変更点>

A問題（知識・技能等）、B問題（活用）と分けて調査していたものを一体的に行うことになった。

【中学校】

『令和4年度』

平均正答率	国語	数学	理科
大口町	やや上回る	上回る	上回る

『令和3年度』

平均正答率	国語	算数
大口町	同等	同等

『令和2年度』

新型コロナウイルス感染症拡大による全国的な臨休業のため、未実施

『平成31（令和元）年度』

平均正答率	国語	数学	英語（聞読書）	英語（話）
大口町	やや下回る	同等	やや下回る	下回る

＜昨年度からの変更点＞

A問題（知識・技能等）、B問題（活用）と分けて調査していたものを一体的に行うことになった。
初めての英語調査（「聞くこと・読むこと・書くこと」と「話すこと」）が行われた。

全国学力・学習状況調査結果を受けて

【今後の取組の方向性】

大口町では、「大口学びスタイル」「大口町家庭学習のスタンダード」「家庭での子育て10か条」を指針として、授業改善や家庭への呼びかけを行ってきています。その効果进行分析し、今後の取組に生かしていくことが重要だと考えます。

今回の全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、これまで注力してきた「大口学びスタイル」「大口町家庭学習のスタンダード」「家庭での子育て10か条」の理念に基づいた取組が実践されている状況がうかがえます。

今後も、以下の点に留意しつつ、継続や改善を図る必要があると思われまます。

- (1) 家庭生活に関して
 - ① 望ましい生活習慣・生活環境
 - ② 家庭での学習時間の確保と過ごし方

- (2) 学校生活に関して
 - ① 学習環境づくり
 - ② 授業改善

(1) 家庭生活に関して

① 望ましい生活習慣・生活環境

「早寝・早起き・朝ごはん」と言われるように、食事や睡眠など規則正しい生活習慣は、心身の健やかな成長や学習意欲を高めるための根幹です。

児童質問紙・生徒質問紙の項目「朝食を毎日食べていますか」に対し、「している」「どちらかといえば、している」の回答は、小学校では約97%、中学校では約94%で、全国値と同程度か、やや高い状況にありました。

項目「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」については、「している」「どちらかといえば、している」の回答は、小学校では約79%、中学校では約78%、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」については、小学校では約89%、中学校では約88%という結果でした。全国値と比べると、小学校はともに同程度でしたが、中学校は就寝が同程度、起床がやや低い状況でした。

データ分析では、これらの項目に対して肯定的な回答の児童生徒は、問題への正答率が高い傾向にありました。

規則正しい生活は、心身の状態を良好に維持し、学習にも好影響を与えます。今後も、ご家庭での協力をお願いいたします。

また、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問項目に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答が、小学校では全国値と同程度、中学校では高い傾向を示しています。

データ分析では、この項目に対して肯定的な回答の児童生徒は、問題への正答率が高い傾向にありました。

家庭での保護者の働きかけは、子供たちの自信、意欲、自制心や忍耐力などに大きく影響を与えます。家庭での温かなコミュニケーション、言葉かけを今後も大切にしていきたいと思えます。

「新聞を読んでいますか」「読書は好きですか」の質問項目についても、肯定的な回答が高い児童生徒ほど、問題への正答率が高い傾向にあります。

小学校では、新聞を読む割合が全国値より高い傾向が見られました。しかし、大口町の子供たちは読書の習慣が、全体的にやや低い傾向にあります。

一方で、「あなたの家には、おおよそのくらい本がありますか」の質問項目がありましたが、家庭の蔵書数は、小学校、中学校ともに、全国値と比べて多い様子が見られます。本に囲まれた環境と正答率に関係性が見受けられましたので、学校だけでなく、家庭においても本に親しむ環境づくりは、子供たちにより影響を与えると考えます。

② 家庭での学習時間の確保と過ごし方

基礎的・基本的な内容の習得には、授業における指導と同時に、家庭学習の充実が不可欠です。

目安の学習時間は、小学校で「学年×10分以上（1年生は20分程度）」、中学校では「2時間以上」と設定しています。小学校6年生では1時間、中学3年生では2時間以上が目安の学習時間となりますが、今回、それを満たしているのは小学校で6割強、中学校では3割強であることが分かりました。

また、普段、1日当たりのテレビゲームの利用時間、SNSや動画視聴の時間は、全国値に比べて同程度か、やや短い傾向が見られますが、相対的に利用時間、視聴時間が長時間になっている児童生徒の割合が高い状況と捉えられます。

「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを

守っていますか」の質問項目については、「きちんと守っている」「だいたい守っている」の割合は、小学校、中学校ともに全国値よりも低い傾向にありました。

家庭での過ごし方、時間の使い方について見つめ直し、自分で計画を立てて、家庭でも充実した学習に取り組めるように促していく必要性を感じます。家庭での約束事について話し合い、主体的に毎日の学習に取り組む習慣の定着をさらに図っていくことが重要であると考えます。

(2) 学校生活に関して

① 学習環境づくり

個々の学びが仲間との対話によって深い理解へつながるようにするためには、学びに向かう力を支える土台がしっかりとしている必要があると考えます。落ち着いて、楽しく過ごせるような雰囲気づくりや人間関係づくりなど、学習環境を整えることが大切です。また、仲間を受容し、お互いの考えを尊重し合う意識の醸成も重要となります。

児童質問紙・生徒質問紙の項目に、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」などがありますが、全国値と比べて、小学校、中学校ともに肯定的な回答の割合が同程度かやや高い傾向にありました。

データ分析では、これらに対して肯定的な回答の児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られます。

また、特に中学校では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」などの質問項目で、肯定的な回答が全国値よりも高い割合で見られ、他者との良好な関係が顕著にうかがえました。

仲間との対話を通して考えを深めたり、広げたりできる意識や行動や、安心して生活できる環境がよい結果に結びつくと思われます。そういった意識や行動が育まれる学習環境づくりを目指し、今後も継続して改善を図っていくことが大切であると考えます。

② 授業改善

一人ひとりが、失敗を恐れずに挑戦したり、最後までやり遂げたりするような経験を積むことや、課題解決に向けて主体的に取り組んだり、思考を重ねたりし、仲間との対話を通して、深い理解につながったりする経験を積むことは、とても大切です。そういった授業の積み重ねが、学びに向かう力を高めることにつながり、学習することの意義について考えたり、学んだことを活用しようとしたりすることにもつながっていくと考えます。また、学習のための道具として、GIGAスクール構想によって配付された一人一台端末の、有効な活用の仕方を模索していくことも必要と考えます。

児童質問紙・生徒質問紙の項目に、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」などがありますが、中学校では、肯定的な回答の割合が全国値と比べて、やや高いか、高い傾向にありました。小学校では、「失敗を恐れずに挑戦」は、全国値より低い傾向にありますが、その他は同程度の状況が見られました。

「算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「算数(数学)の授業で、問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」などの質問項目がありますが、特に中学校で全国値と比べて、肯定的な回答の割合が、やや高い傾向、もしくは高い傾向にありました。

これらの項目は、データ分析を見ると、肯定的な回答の児童生徒ほど、正答率が高い傾向にありました。学習内容の意味やわけを考えたり、よりより方法をあきらめずに探したりできる意識や姿勢が大切であると捉えられます。

今後も、基礎的・基本的な内容の習得とともに、「主体的、対話的で深い学び」を通した

思考力・判断力・表現力を育む授業、学んだことを活用したり、そのよさを実感したりできる授業を実践していけるように改善に努めていく必要があると考えます。

I C T機器の活用状況については、「(小) 5年生までに(中) 1、2年生のときに受けた授業で、P C、タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか」の質問項目がありましたが、小学校、中学校ともに全国値に比べ、高い割合で活用している状況が把握できました。

また、「学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問項目がありますが、肯定的な回答の割合が小学校、中学校ともに全国値よりも高く、有効に活用されている状況もうかがえました。

学習に際し、時、場面に応じて有効に活用できる力とともに情報リテラシーについても継続的に指導していく必要があると考えています。